

在日大韓基督教会
宣教90周年標語

일어나 예수 그리스도의 빛을 발하자
立て イエス キリストの光を放とう
(イサヤ60:1, 마태5:16)



THE GOSPEL NEWS

全国青年夏期修養会開催

琵琶湖近くに60名が集う



8月14、17日、青年会全国協議会(全協)主催の第57回全国青年夏期修養会が、主として「喜ばう」居場所、副題「喜ばう」居場所、泣く人と共に泣きなさい(ローマ12:15)のもと、琵琶湖近くにある滋賀県長浜市のサイクリングターミナル「ホテルグリーンハウス」にて開催された。参加者は、60名であった。

今年度のプログラムの柱は、一日目の全協発題、二日目の佐藤仁彦さん(ラルシュ・かなの家設立者)の講演とバリ口礼拝、三日目の梁釐一さん(大阪YMCA国際専門学校表現・コミュニケーション)の講演であった。

初日、金健牧師の導きによる開会礼拝の後、全協発題が行われた。発題では、岩城一雄代表委員が、主として「喜ばう」居場所、泣く人と共に泣きなさい、自分の半生の振り返りや、想い、学びを感じたこと、考えたことを率直に話し、参加者たちも、それぞれ自分の体験などを振り返りながら聞いた。とくに、岩城代表委員による、自分の父親の生き様から学んだことについて触れた話は、多くの参加者に感動を与えていた。

二日目は、佐藤仁彦さんの講演を聞いた後、QT(クワイエット・タイム)と称して約2時間、誰とも話さずに自分の中でさまざまなことを考えながら、思いの時間を過ごすという時間があった。QTを終えた参加者の顔には、自分と向き合い、何かを感じ取ったという表情が浮かんでいた。

その後、サイクリングをしながら、分団ごとに琵琶湖周辺を回った。コースは約12キロの距離であったが、道に迷い、32キロも走った分団もあった。参加者からは疲労したが楽しかったという声が多くあった。一致と協力の大団結を学んだ時間でもあった。

夜のバリ口礼拝では、スライドと朗読劇を行い、3世にとっては歴史の出来事となった1945年8月15日を振り返り、その意味を心に刻む時間をもった。とくに、朗読劇での京都宇治市のウトロ地区の歴史や現状、現在の青年の素直な思いについての語り、参加者たち、改めて違った角度から8月15日を考える機会を与えたように思われる。

全国高校生夏期学校開催

自分たちの教会の歴史や現状を学ぶ

8月15、17日、滋賀県長浜にある国際文化交流ハウス(ジオ)にて、2006年度全国高校生夏期学校がもたれた。参加者は、8名、男子8名、女子3名、男子3名であった。

今回の夏期学校では、2年後に迫った在日大韓基督教会(KCCJ)の宣教百周年に向け、もっと自分たちの教会の歴史や現状を学ぶという主旨で、テーマを「私たちの在日大韓基督教会」と設定し、金健牧師(川崎)が2回にわたって講演した。

1回目の講演では、在日大韓基督教会の設立と関連する在日韓朝鮮人の渡来史についての分かりやすい説明があった。また、2回目の講演では、参加した高校生たちが自分たちの通っている教会の背景(創立年、所在地、教役者、自慢できること)を、資料として提供された「在日大韓基督教会90周年記念誌」などを参考に調べ、発表し合う実践なども行われた。

また、夏期学校のチャプレンであったKCCJ教育委員会委員長の楊眞眞牧師(京都南部)が、開会礼拝では「キリスト・イエスにおいて一つ」(ガラテヤ3:26、29、二日目の朝の集いでは「同じ心と同じ思いの教会」(1コリント1:10、20、三日目の朝の集いでは「あなたがたはこの世の光」(マタイ5:14、16)として、開会礼拝では「教会はつくられるもの」(詩編126:1-6)と題してのメッセージをそれぞれ行い、礼拝の時間を豊かに導いてくださった。

今年度は、夏期学校の会場は全国青年夏期修養会の会場から少し離れたが、スポンサー大会とキャンブ・ファイヤーは一緒にさせていた。高校生も張り切って青年と交わりをもつて

者への対応など、これからの運営に向けての課題も多かったが、全体的に充実した会であった。参加者一人ひとりが、修養会で経験したこと、学んだこと、感じたこと、考えたことを、今後、教会での働きや私生活に活かせると思う。

(報告・李正一)

平和を求める 祈りと祭典

中部集会開催

「私たちが共に生きる道」主題で



8月13日、名古屋教会を会場に、主題「私たちが共に生きる道―平和と祈り」共同による「平和を求める祈りと祭典」の集会が、超教派の集いとして開催された。約200人の参加があった。

この集会の開催の契機は、5月16日の中部地方会第43回定期大会にて採択された「平和を求める声明文」であった。

当日、集会に先立ち、午後2時より、日本が関わった戦争(中国・沖縄)の悲惨さを示す写真展が行われた後、午後3時より集会が行われた。

集会ではまず、マダン劇「ささしま食堂」が上演された。劇では、初め、野宿労働者・超過滞在者たちに親しまれる大衆食堂を舞台に、食堂の主人と酒飲み、常連客である在日韓国人、そして韓国出身の客といった登場人物たちが、ナシヨナリズムが高まる日本が、また韓国が何か大切なものを見落としていることに不満をぶつけ合う。そして、そこへ「愛国心度チェック」

の近代主義の考えから、日本のために来日した若い日本政府職員との間に大論争が起るクライマックスを迎えるが、論争は意外な方向に進んでいくというストーリーであった。出演者は、実際に「ささしま食堂」を経営する日本人キリスト者と、在日日本人の牧師たちであった。日常生活と仕事を地で行く迫真の演技に、会場は大爆笑に包まれた。

演劇に続き、「多民族と多元文化時代の平和」との演題で、韓国神学大学教授の金聖在牧師による講演があった。講師は、金大中大統領時代の首席秘書官としての経歴をもつ民衆神学の気鋭の神学者である。講演内容は、今日のグローバリ化した経済的搾取と、「平和」の名を借りた、大国による弱小国支配が、西洋

なことを考えながら、思いの時間を過ごすといいつた、自分と向き合うための時間をもった。QTを終えた参加者の顔には、自分と向き合い、何かを感じ取ったという表情が浮かんでいた。

その後、サイクリングをしながら、分団ごとに琵琶湖周辺を回った。コースは約12キロの距離であったが、道に迷い、32キロも走った分団もあった。参加者からは疲労したが楽しかったという声が多くあった。一致と協力の大団結を学んだ時間でもあった。

夜のバリ口礼拝では、スライドと朗読劇を行い、3世にとっては歴史の出来事となった1945年8月15日を振り返り、その意味を心に刻む時間をもった。とくに、朗読劇での京都宇治市のウトロ地区の歴史や現状、現在の青年の素直な思いについての語り、参加者たち、改めて違った角度から8月15日を考える機会を与えたように思われる。

の近代主義の考えから、日本のために来日した若い日本政府職員との間に大論争が起るクライマックスを迎えるが、論争は意外な方向に進んでいくというストーリーであった。出演者は、実際に「ささしま食堂」を経営する日本人キリスト者と、在日日本人の牧師たちであった。日常生活と仕事を地で行く迫真の演技に、会場は大爆笑に包まれた。

演劇に続き、「多民族と多元文化時代の平和」との演題で、韓国神学大学教授の金聖在牧師による講演があった。講師は、金大中大統領時代の首席秘書官としての経歴をもつ民衆神学の気鋭の神学者である。講演内容は、今日のグローバリ化した経済的搾取と、「平和」の名を借りた、大国による弱小国支配が、西洋

の近代主義の考えから、日本のために来日した若い日本政府職員との間に大論争が起るクライマックスを迎えるが、論争は意外な方向に進んでいくというストーリーであった。出演者は、実際に「ささしま食堂」を経営する日本人キリスト者と、在日日本人の牧師たちであった。日常生活と仕事を地で行く迫真の演技に、会場は大爆笑に包まれた。

演劇に続き、「多民族と多元文化時代の平和」との演題で、韓国神学大学教授の金聖在牧師による講演があった。講師は、金大中大統領時代の首席秘書官としての経歴をもつ民衆神学の気鋭の神学者である。講演内容は、今日のグローバリ化した経済的搾取と、「平和」の名を借りた、大国による弱小国支配が、西洋

の近代主義の考えから、日本のために来日した若い日本政府職員との間に大論争が起るクライマックスを迎えるが、論争は意外な方向に進んでいくというストーリーであった。出演者は、実際に「ささしま食堂」を経営する日本人キリスト者と、在日日本人の牧師たちであった。日常生活と仕事を地で行く迫真の演技に、会場は大爆笑に包まれた。

演劇に続き、「多民族と多元文化時代の平和」との演題で、韓国神学大学教授の金聖在牧師による講演があった。講師は、金大中大統領時代の首席秘書官としての経歴をもつ民衆神学の気鋭の神学者である。講演内容は、今日のグローバリ化した経済的搾取と、「平和」の名を借りた、大国による弱小国支配が、西洋

の近代主義の考えから、日本のために来日した若い日本政府職員との間に大論争が起るクライマックスを迎えるが、論争は意外な方向に進んでいくというストーリーであった。出演者は、実際に「ささしま食堂」を経営する日本人キリスト者と、在日日本人の牧師たちであった。日常生活と仕事を地で行く迫真の演技に、会場は大爆笑に包まれた。

演劇に続き、「多民族と多元文化時代の平和」との演題で、韓国神学大学教授の金聖在牧師による講演があった。講師は、金大中大統領時代の首席秘書官としての経歴をもつ民衆神学の気鋭の神学者である。講演内容は、今日のグローバリ化した経済的搾取と、「平和」の名を借りた、大国による弱小国支配が、西洋

歴史コラム53

涙の入堂式—京都中央教会堂建設ストーリー—

李 清 一 (歴史編集委員会)



写真:初代教会堂の礎石

1930年の京都には、集ってそれぞれ礼拝を行っていた。中央教会(京都市中京区千本仏光寺)、京都東部教会(京都市吉田町の京大YMCA会館内)、京都南部教会(京都市下京区東九条岩本町)、伏見教会(伏見市島羽町)である。牧師は、30年に赴任した崔敬学牧師ただ一人であり、毎主日の午前礼拝は1カ所に集まってた(「基督報」第800号)。

しかし、そのような状況にあっても、教会堂建設の思いは強かった。京都中央教会の職員会(現・諸職会)の記録によれば、1931年4月19日の職員会において、献金の残金は教会

「主が私を遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、貧しい人々に福音を告げ知らせるためである」

このような社会に転換を促していく時に、神の支配が及ぶようになる。このイエスの福音の宣教宣言は、その社会に向かつて発せられた。それは、すべての人びとが、この宣言のもとに集い、貧しい人への福音の宣教に参与することを求めているのである。

18年間、宣教師夫人として釜山において活動した後、京都の同志社大学で音楽を教えていたアービン宣教師は、京都の朝鮮教会の信徒たちが献金を集めて教会堂用地を購入したことを聞き、非常に感銘を受けた。そして、派遣元の米国北長老宣教師本部や母教会、親戚にそのことを伝え、協力の依頼をしたところ、多額の建築献金が送金されてきた(「京都教会の歴史」)。アービンは、彼女個人が永年にわたって貯金してきたお金と合わせて、1万5千円を崔敬学牧師に託した。このことは、ただちに信徒たちにも伝えられ、大きな感謝と共に、信徒の建築献金への意欲向上にもつながった。

アービン宣教師の献金を元手に建築が始まり、35年

「主が私を遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、貧しい人々に福音を告げ知らせるためである」

このような社会に転換を促していく時に、神の支配が及ぶようになる。このイエスの福音の宣教宣言は、その社会に向かつて発せられた。それは、すべての人びとが、この宣言のもとに集い、貧しい人への福音の宣教に参与することを求めているのである。

18年間、宣教師夫人として釜山において活動した後、京都の同志社大学で音楽を教えていたアービン宣教師は、京都の朝鮮教会の信徒たちが献金を集めて教会堂用地を購入したことを聞き、非常に感銘を受けた。そして、派遣元の米国北長老宣教師本部や母教会、親戚にそのことを伝え、協力の依頼をしたところ、多額の建築献金が送金されてきた(「京都教会の歴史」)。アービンは、彼女個人が永年にわたって貯金してきたお金と合わせて、1万5千円を崔敬学牧師に託した。このことは、ただちに信徒たちにも伝えられ、大きな感謝と共に、信徒の建築献金への意欲向上にもつながった。

アービン宣教師の献金を元手に建築が始まり、35年

今年のは、久しぶりに神学校時代の恩師が長野の白馬に行きました。夏の強い日差しの中で、栗や榎の木、胡桃などが、その枝に実をつけていました。自然の営みが、今年もまた着実に繰り返されているのを感じられました。

中部地方会においては、今年の8月13日に、「平和を求め祈りと祭典」を催しました。その時に講師としてお呼びした金聖在教授(韓国神学大学校)の話が、白馬の自然の中にあると思われ、人が自然を支配するという考えが、これまでのキリスト教の考え方であり、強者の論理、今日の聖書本文の話で

ヨハネにとって、来るべき

「主が私を遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、貧しい人々に福音を告げ知らせるためである」

このような社会に転換を促していく時に、神の支配が及ぶようになる。このイエスの福音の宣教宣言は、その社会に向かつて発せられた。それは、すべての人びとが、この宣言のもとに集い、貧しい人への福音の宣教に参与することを求めているのである。

18年間、宣教師夫人として釜山において活動した後、京都の同志社大学で音楽を教えていたアービン宣教師は、京都の朝鮮教会の信徒たちが献金を集めて教会堂用地を購入したことを聞き、非常に感銘を受けた。そして、派遣元の米国北長老宣教師本部や母教会、親戚にそのことを伝え、協力の依頼をしたところ、多額の建築献金が送金されてきた(「京都教会の歴史」)。アービンは、彼女個人が永年にわたって貯金してきたお金と合わせて、1万5千円を崔敬学牧師に託した。このことは、ただちに信徒たちにも伝えられ、大きな感謝と共に、信徒の建築献金への意欲向上にもつながった。

アービン宣教師の献金を元手に建築が始まり、35年

説教



人権主日

「貧しい人への福音」

洪 領 晃 (二宮伝道所牧師)

ルカ7:18~23



「主が私を遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、貧しい人々に福音を告げ知らせるためである」

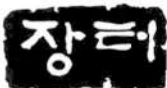
このような社会に転換を促していく時に、神の支配が及ぶようになる。このイエスの福音の宣教宣言は、その社会に向かつて発せられた。それは、すべての人びとが、この宣言のもとに集い、貧しい人への福音の宣教に参与することを求めているのである。

18年間、宣教師夫人として釜山において活動した後、京都の同志社大学で音楽を教えていたアービン宣教師は、京都の朝鮮教会の信徒たちが献金を集めて教会堂用地を購入したことを聞き、非常に感銘を受けた。そして、派遣元の米国北長老宣教師本部や母教会、親戚にそのことを伝え、協力の依頼をしたところ、多額の建築献金が送金されてきた(「京都教会の歴史」)。アービンは、彼女個人が永年にわたって貯金してきたお金と合わせて、1万5千円を崔敬学牧師に託した。このことは、ただちに信徒たちにも伝えられ、大きな感謝と共に、信徒の建築献金への意欲向上にもつながった。

アービン宣教師の献金を元手に建築が始まり、35年

訂正

先月号(646号)の第1面の記事「全国女性会4局合同研修会を開催」中の開会礼拝の説教は朴恩熟牧師ではなく、朴志暎牧師(大阪で、説教後の聖餐式の司式が朴恩熟牧師でした。訂正いたします。



韓国食品・書籍・CD・ビデオ

(株)韓国広場

新宿店: 東京都新宿区大久保1-17-7
TEL (03) 3232-5400
FAX (03) 3200-2949

代表取締役 金根熙

医療法人

おりお心クリニック

院長 金 長 壽
(福岡中央教会 長老)

診療科目: 神経科 精神科 心療内科
精神保健相談 酒害相談

診療所: 〒807-0825 北九州市八幡西区折尾4-2-8
TEL (093) 603-3280
FAX (093) 603-7985
自宅: 〒813-0003 福岡市東区香住ヶ丘1-14-8
TEL・FAX (092) 672-9410

株式会社 ニューキング
有限会社 三 愛

取締役社長 李 鍾 善
(名古屋教会 長老)

ニューキング 四日市市野田1丁目965-1
TEL (0593) 31-4771(代)
三 愛 岡崎市大和町字荒田14-1
TEL (0564) 31-8893(代)

入管法改悪 に抗議する 北九州7・8緊急集会開催 NO! 指紋捺印制度復活

今年度5月入管法改正案が参議院を通過し、指紋捺印制度が復活された。来年末から実施予定のこの制度は、日本内閣府が外国人の入国を拒否する手段として、年々厳格化され、外国人の入国が困難になっている。この制度は、日本内閣府が外国人の入国を拒否する手段として、年々厳格化され、外国人の入国が困難になっている。



8月20日、北九州7・8緊急集会が開催された。この集会は、入管法改正案に反対する人々によるもので、指紋捺印制度の復活に抗議する。集会には、北九州各地から多くの参加者が集まり、入管法改正案に反対する声を上げた。

光明園家族教会を訪問 関聖連とリトル・ジェイズが合同礼拝

7月17日、関西地方聖歌隊連合会(関聖連)と大阪教会のリトル・ジェイズ少年少女合唱団が、岡山県長島の光明園家族教会を訪問し、合同礼拝を行った。

光明園家族教会は、岡山県長島にある日本基督教団の教会で、関聖連とリトル・ジェイズの合同礼拝は、今年初めての行事となった。礼拝は、関聖連の讃美「サシヤイン・イン・マイ・ソウル」で始まり、リトル・ジェイズの合唱で続いた。光明園家族教会の牧師は、両団体の訪問を歓迎し、合同礼拝の意義を述べた。

今後、集会は改正法案に反対する人々によるもので、指紋捺印制度の復活に抗議する。集会には、北九州各地から多くの参加者が集まり、入管法改正案に反対する声を上げた。

西南地方会が修養会開催 李根秀牧師の豪州留学経験に学ぶ

8月20日、北九州7・8緊急集会が開催された。この集会は、入管法改正案に反対する人々によるもので、指紋捺印制度の復活に抗議する。



初日は、教育部長である金聖孝牧師(熊本)が開会式を執り行った。李根秀牧師は、豪州留学経験から得た教訓を話し、西南地方会のメンバーに伝えた。

予算の関係上、隔年で訪問するかどうか話し合ってきたが、光明園家族教会側から、百周年記念礼拝まで訪問を続けたいという要望があった。光明園家族教会の牧師は、両団体の訪問を歓迎し、合同礼拝の意義を述べた。

今回の修養会は、修養会に参加した者すべてに感謝を伝えるものであった。海外留学を経験されたKCCJの牧師たちの話を聞くことが、多くの参加者に好評だった。

全協夏修に参加して

金島英輝(名古屋教会)



今回、初めて全国青年夏期修養会(夏修)に参加させてもらいました。きっかけは名古屋教会の青年でした。夏修に参加することで、自分自身の考えを磨き、他の青年たちと交流することができました。

全国高校生夏期学校感想文

夏期学校に参加して

金京一(高3/折尾教会)



僕は今回の夏期学校で3回目の参加です。3回目になると、知っている顔も増えて、交流が楽しくなりました。今回の夏期学校では、自分自身の考えを磨き、他の青年たちと交流することができました。

在日同胞文化の創造と多文化共生社会を目指して

2006年4月25日、創立100周年を迎えました。

- ◆東京で一番安く便利な宿泊研修施設(ホテル)：フロントは日・韓・英語に対応、24時間サービス。10名様から220名様までの会議及び宿泊研修(50名様)も可能。
- ◆スペースワイホール：220席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに最適
- ◆韓国文化(チャン・カヤグム・舞踊)教室・韓国語講座・各種子どもクラス
- ◆YMCAアジア語学院(日本語学校)

※会員及び教職者割引有

<在日本韓国YMCA100周年記念>連続講座「Cut and Mix」案内

期間：2006年5～12月、参加費：各回500円、於：東京韓国YMCA

- ◆9月30日(土)午後2～4時30分 金東律さん 写真展&トーク
- ◆10月6日(金)午後6時30分～9時「ビジネスの世界は今、在日を超えてアジアの架け橋に」講師：郭充良さん(アーン)

在日本韓国YMCA

http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/

東京韓国YMCAアジア青少年センター

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5 TEL 03-3233-0611 FAX 03-3233-0633

関西韓国YMCAアジア青少年センター

〒537-0025 大阪府東成区中道3-14-15 TEL 06-6981-0781 FAX 06-6981-0782

10エンの奇跡! キャンペーン

小さな貯金箱を大切に育て、10エンの奇跡を体験しよう。10エンの奇跡を体験しよう。10エンの奇跡を体験しよう。

くねいバーズが支援している事業場では10エンの奇跡を体験しよう。10エンの奇跡を体験しよう。10エンの奇跡を体験しよう。

くねいバーズはアジア・アフリカの20ヶ国から選り抜いた、10エンの奇跡を体験しよう。10エンの奇跡を体験しよう。10エンの奇跡を体験しよう。

NPO 法人 日本くねいバーズ
06-6945-3920
E-mail: admin@gnjp.org
http://www.gnjp.org